

地域の施設や環境の活用を通しての保育

～地域の公園・公民館の利用、電車遠足の活動～

桐生市立桜木幼稚園

1 はじめに

桜木幼稚園は、園舎西側に東武鉄道の線路があり、毎日電車を見ながら生活をしている。幼稚園の周りには、新桐生駅や新桐生公園、園舎と線路の間に流れている川の上流には、大清水公園があり、それぞれ散歩コースになっている。また、その川をのぞきながら歩いて桜木小学校南側にある桜木西公民館へ行き、図書館を利用している。そのように、地域の施設を利用しながら四季折々の自然を体いっぱいを感じたり、発見したりしながら過ごしてきた。そして一昨年より、いつも見ていた電車に乗る遠足を園児と一緒に計画を立て『電車・気動車遠足』を実施している。

園の教育目標でもある「豊かに感じとる子」を育てていく上で、地域の施設や場所、地域の方々にかかわることで人に親しみをもち、様々な経験を積み重ねていき、園の教育目標でもある「豊かに感じとる子」を育てていくことがやがては「桐生を好きな子供」の育成につながっていくのではないかと考えている。

2 概要

(1) 実践のねらい

- ① 地域にある身近な自然環境施設を知り、楽しく活動する。
- ② 幼稚園からよく見え毎日親しんでいる電車等に乗車し、地域に対する親しみの気持ちを深める。

(2) 内容

- ① 新桐生公園
- ② 大清水
- ③ 地域にある電車等を使っての遠足

3 活動の様子

(1) 新桐生公園の自然環境を使っての活動

桜木幼稚園から徒歩 10 分ほどの場所にある新桐生公園には年に数回出掛け、その時期の自然にふれることができるようにしている。春には竹の子を見つけ、秋にはどんぐりや松ぼっくりを発見するなどの姿が見られた。

新桐生公園に行くまでに、自分たちの通っている幼稚園を上から見ることもできるので子どもたちは大喜びしていた。



「大きいどんぐりあったよ！」



「わらを集めて何作る？」



「わらのお家できあがり！」

(2) 大清水

地域の方々が整備してできた「大清水」この地域ならではの自然豊かな場所である。とてもきれいな水が流れ、カニやザリガニなど見ることができる。広場には、かえるやバッタなどの生き物たちもいて身近に自然を感じられる。この場所をとっても気に入ったらしく、お家の人と繰り返し訪れる幼児もいる。



「かえる みつけた！」



「流れの中に見つけたのはザリガニ？」



(3) 「電車・気動車遠足」

幼稚園の園庭から電車が走っているのが見える。子どもたちは電車に向かって手を振ったり、「どこに行くのかな？」など思いを巡らしたりし、親しみをもっている。遠足の行き先をどこにするか年長組を中心に相談した時には、「電車に乗りたい」という声があがり、行き先はみどり市のながめ公園に決まった。幼稚園から新桐生駅まで歩いて行き、今まで幼稚園から見ていた電車に自分たちも乗れるという嬉しさから期待と喜びにあふれた表情の子どもたちだった。電車の中から、幼稚園や知っている風景を探したり、公共の場でのマナーを守りながら楽しく過ごしたりした。そして、相老駅でわたらせ渓谷鐵道に乗り換え、気動車の旅も楽しんだ。遠足後は電車が通るのを見ると「あの電車に乗って遠足に行ったね」「幼稚園が見えたね」「楽しかったね」など話していた。



「電車に乗ってみたいな！」



「新桐生駅に到着！
電車・気動車遠足へ出発！」



「電車の中からの景色に夢中」

4 おわりに

桜木地区の周辺には、自然豊かな施設や場所があり、楽しみながらたくさんのかたのことを豊かに感じ取っている。今後も幼児の実態に合わせた無理のない計画の立案や内容を考えていくことが大切である。

本園では、地域の方とのつながりも大切にしてきた。絵本の読み聞かせやお茶会は、地域の先生を招いて月1回行っている。また、ぶどう狩り（津久井ぶどう園）や豆まき（賀茂神社）もちつき会（賀茂長寿会・婦人会の協力）などを行う中で、地域の人たちとの触れ合いが幼児にとって貴重な経験となっている。今後も、地域を活用した活動を多く取り入れながら、心豊かな「桐生を好きな子供」の育成に努めていきたい。